

[参考] J-STAGE Lite (仮称) のご案内

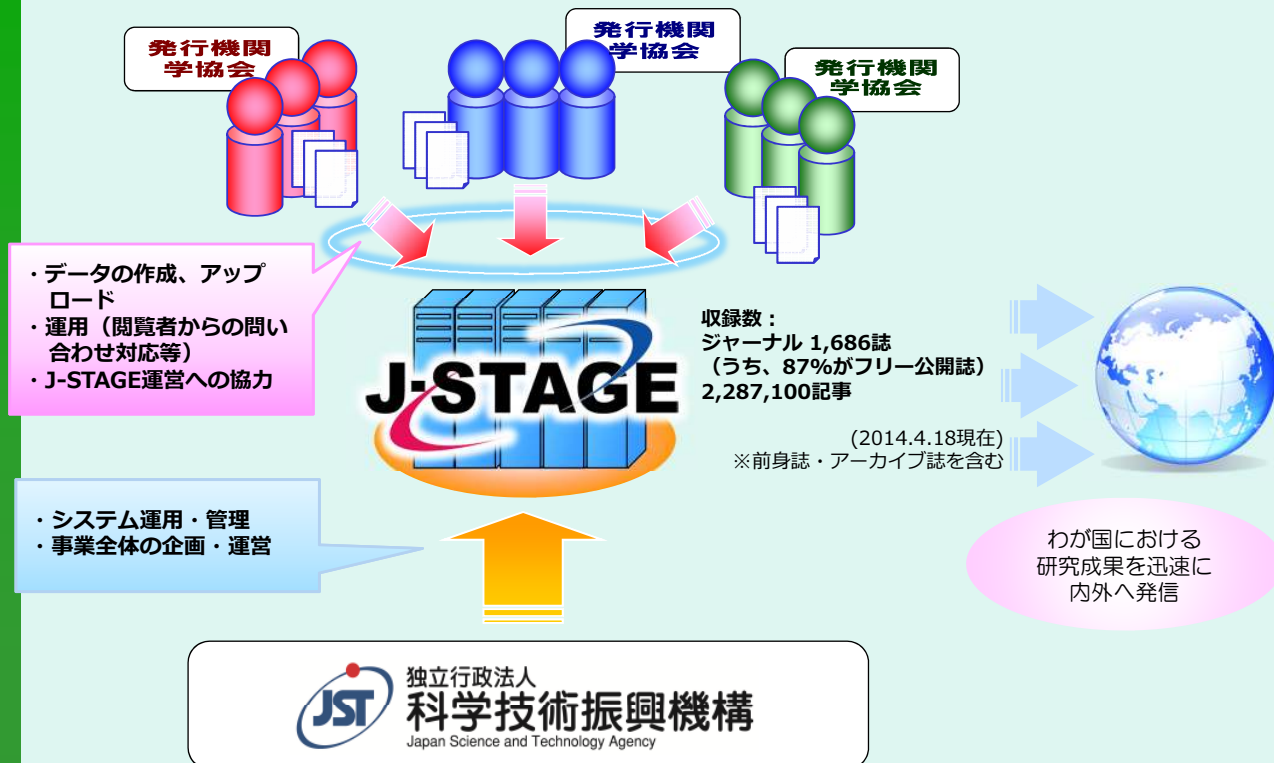
独立行政法人 科学技術振興機構 (JST)
知識基盤情報部

J-STAGEによる電子情報の流通促進

- 科学技術情報発信・流通総合システム
(Japan **S**cience and **T**echnology Information **A**ggregator, **E**lectronic)
= 国内最大級の電子ジャーナル発行用共同プラットフォーム
- 国内で刊行される科学技術(人文科学・社会科学に関するものを含む)逐次刊行物の内外への発信・流通促進を目的として運用
 - ISSNの取得が原則
 - 論文等情報の**オープン**な流通促進が基本
(公開を限定する認証機能・課金機能も実装しているが、あくまでオプションとしての位置づけ)
 - アーカイブよりも、最新コンテンツの公開を相対的に重視
- **データの作成・公開・運用は各発行機関(J-STAGE利用学協会等)が行う**

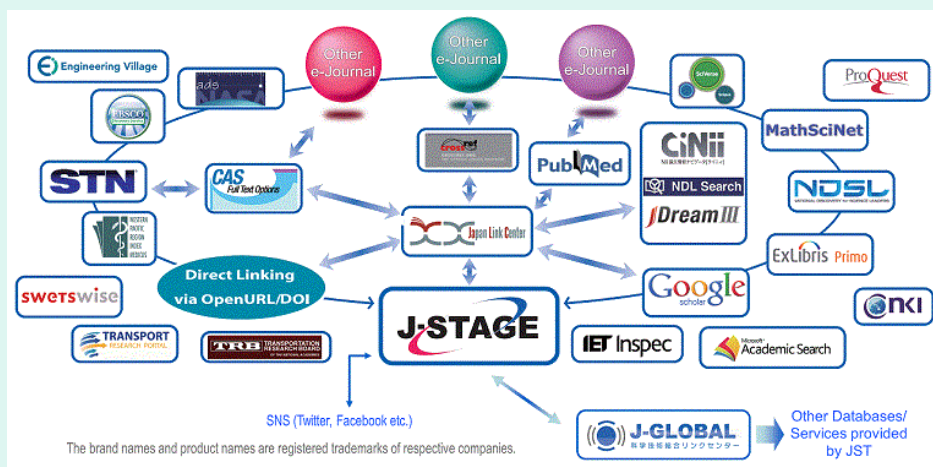
- **データ作成・登載作業体制の確保・維持整備**
- **閲覧者からの問い合わせ対応体制の確保・維持整備 が必須**

J-STAGEの概要



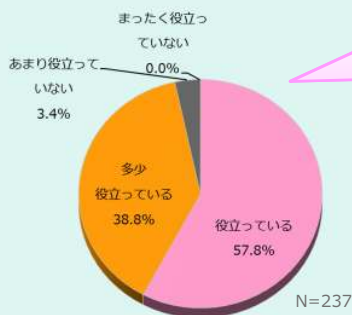
現行J-STAGEシステム・サービス概要

- ・ 査読済み論文を掲載した学術論文誌（ジャーナル）を対象
- ・ 一部ジャーナルには投稿審査システムを提供(利用基準あり)
- ・ CiNiiなど、内外のデータベース・学術情報サービスと検索連携



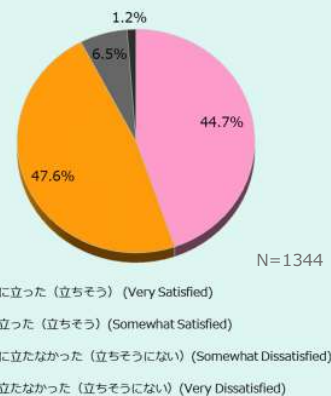
- ・ 早期公開、COUNTER国際規格準拠アクセス統計、CrossCheck(剽窃検知サービス)等、論文情報を電子的にすばやく公開・流通させるための機能・サービスを実装
- ・ 機能の利用には電子学術出版上等の一定スキル・知識が必要な部分も

● J-STAGEの評価・満足度 (2014.3実施満足度調査)



利用学協会アンケート：
Q. J-STAGEは貴誌の国際発信力強化に役立っていますか

読者（閲覧者）アンケート：
Q. J-STAGEは役に立ちましたか（役に立ちそうですか）



● オープンアクセスの進展とJ-STAGE

- JSTは、イノベーションを駆動する科学技術・学術情報のオープンな流通を強く推奨

- (参考)「オープンアクセスに関するJSTの方針」(平成25年4月)
http://www.jst.go.jp/pr/intro/pdf/policy_openaccess.pdf

- J-STAGEは、各利用学協会の積極的な参画により、本文情報をフリーで閲覧できる大規模電子ジャーナルプラットフォームとして国際的にも認知



J-STAGEは、オープンアクセス、オープンサイエンスのインフラへ

J-STAGEの新枠組み「J-STAGE Lite（仮称）」

● 背景

- 電子化、オープンアクセス化の進展
- 査読済み科学技術論文掲載論文誌、およびその他の科学技術逐次刊行物を、より広範かつオープンに、簡便な形で内外に流通させるニーズの増大
- J-STAGEのプラットフォームを利用して、上記のようなコンテンツを、単純な手順で公開できる機能実装の必要性

→ 現行J-STAGEシステムの拡張機能により対応へ

● 基本コンセプト

- 既存J-STAGE誌の資格はクリアしない電子ジャーナルも登載可能に

◆ 既存J-STAGE誌の登載資格

- ・ 国内の非営利機関が発行する科学（人文・社会科学を含む）技術逐次刊行物であること。
- ・ 査読・審査を経た論文を掲載していること。
- ・ 投稿を広く受け付けていること。（特定の機関内等に限定していないこと）
- ・ 発行機関においてデータの作成・登載・運用が可能であること。

→ 訂正記事対応（エラータムの発行や記事リンク等）など、ジャーナル品質管理上の運用についても労力・工数が必要

- 科学技術情報流通全般にとっては

- 研究報告書など、用途・公開流通の幅が広がる

- エンドユーザ（閲覧者）にとっては

- 登載誌の大幅増（記事としてはメタデータの必須項目はこれまでと変わらない）
- “国内の論文全文を読むならJ-STAGE”



J-STAGEの新枠組み「J-STAGE Lite (仮称)」

- 現存リソースを活かして改造により新たな枠組みに対応
- 利用者からはJ-STAGEとJ-STAGE Liteは、一体的サービスとして利用可能なインタフェースを実現する方向
- 基本的な機能
 - 1 記事ごとにアップロードを行う (登録手順例)
 - 1. 書誌情報 (巻・号・開始ページ、タイトル、著者名、著者所属、キーワード、抄録、引用文献リスト等。一部は任意項目) をWebベースの専用画面から入力
 - 2. 透明テキスト付きPDFをアップロード
 - ※登録に必要なファイルは上記PDFのみ
 - 3. 内容を確認して公開日を設定
 - 原則として、コンテンツのオープンな公開を推奨。認証・課金機能は、学協会で設定・運用等を行うことにより利用可能 (課金については、クレジットカードによるPay Per View機能の利用が可能(個別にクレジットカード会社との契約が必要。運用コストが発生))
 - 公開日を自由に設定可能 (アップロードの翌日以降を指定できます)
 - 引用文献リンクを自動付与 (仕様には一定の制約条件があります ※網羅性・真正性が保証されるわけではありません)
 - アクセス統計機能、電子付録

Web画面から単純な作業で登録が可能

機能・サービス仕様等は検討中のものであり、今後変更される場合もございます。また、J-STAGE Lite(仮称)は、現行NII-ELSの機能・サービス等を代替・継承するものではありません。



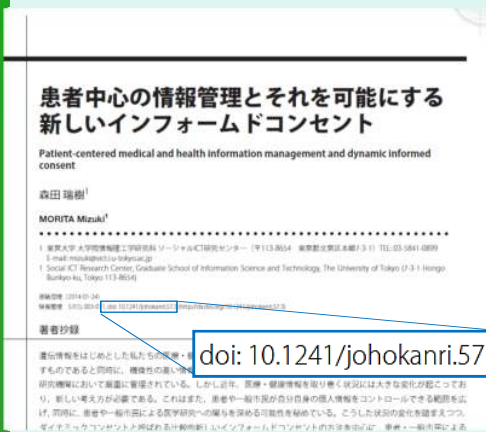
J-STAGEの新枠組み「J-STAGE Lite (仮称)」

- J-STAGEと連携するジャパンリンクセンター (JaLC) により、各記事にデジタルコンテンツの国際識別子「DOI」を付与 (DOIの付与、運用に係るコストはJSTが負担いたします)

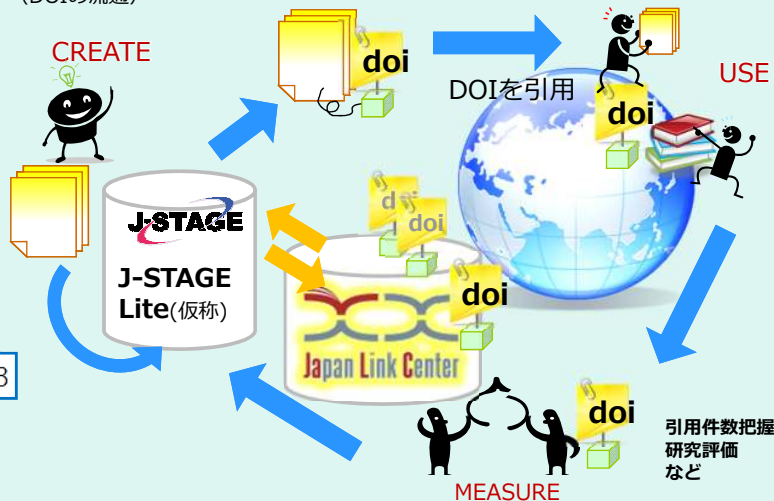


- DOI=デジタルオブジェクト識別子
電子化された学術情報には必須となりつつある国際識別子

(DOIの例)



(DOIの流通)



機能・サービス仕様等は検討中のものであり、今後変更される場合もございます。また、J-STAGE Lite(仮称)は、NII様のELS機能・サービス等を代替・継承するものではありません。

スケジュール（予定）

平成
26年度

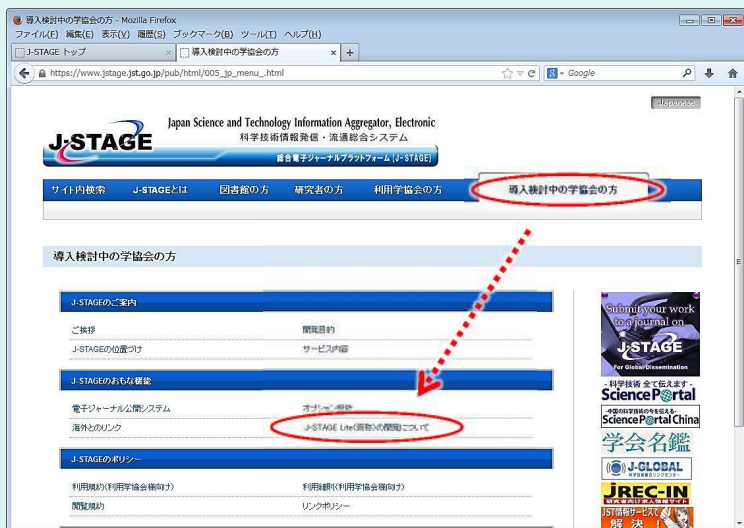
- システム設計、開発、テスト
- 科学技術情報発信・流通総合システム利用規約の改正
（＝J-STAGE Lite向け規約の新設）
（おもな改正(新設)検討箇所）
 - ・ 利用条件の緩和（査読済み論文掲載ジャーナルの限定 等）
 - ・ 「J-STAGEが内外への情報発信流通を目的とすること」「コンテンツの作成・維持・管理責任は発行機関にあること」「J-STAGE運用への協力義務」等の原則に変更はありません
- J-STAGE Lite利用受付開始
- システム・サービスリリース

平成
27年度

※スケジュールは平成26年4月現在の予定です。今後変更となる場合もございます。

開発情報・サービスに関する情報ご提供

- J-STAGE Lite（仮称）の開発・サービス提供スケジュール等に関する情報を掲載するページを開設しております
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>
 [導入検討中の学協会の方]－[J-STAGE Lite（仮称）の開発について]



関連情報はツイッター、
メールマガジン等でも
配信しております
J-STAGE Twitter :
@jstage_ej

J-STAGE News e-mail

検索